

第3回アドバイザーボード会議ステートメント

県では、今年になり感染者の死亡者が増加していることを踏まえ、高齢者や重症化リスクの高い患者等を徹底して守ることを最重要事項として取り組むべきである。

このことから、県民が必要としている情報を的確に把握し、あらゆる方法で分かり易く発信していくとともに、対策の要であるワクチン接種について、市町村や経済界、教育、福祉など様々なステークホルダーと一体となって、県民運動的に推進していく必要がある。

また感染拡大期に備え、医療体制の強化やデジタル技術の活用による革新的な感染対策などに短期的・中長期的視点をもって取り組むべきである。

【附帯意見】

現在感染状況は、緩やかな増加傾向にあるが、今後も徹底した感染対策を行いながら、社会・経済活動を回復していくことが重要である。

主な具体的意見(第3回アドバイザリーボード会議)

(1) 感染防止対策

- 感染拡大防止の観点から、基本的な感染対策の継続のほか、抗原検査キットによる検査やPCR検査を必要ときに受けることができる体制を整える必要がある。また、高齢者施設や保育施設等の職員に実施しているPCR検査を継続し、クラスター発生を防ぐことが重要である。
- 今夏の感染拡大期においては、特に高齢者の死亡者が多かったことを踏まえ、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある者を徹底して守る必要がある。

(2) ワクチン接種の促進

- ワクチン接種率の向上により、重症化リスクの高い高齢者等が守られることから、県は市町村、経済・教育・福祉分野などの関係機関と連携し、ワクチン接種を促進すべきである。
- ワクチン接種を促進するには、ワクチンの種類や特性など、県民が必要とする情報を分かりやすく発信し、接種したい種類のワクチンを受けやすい体制の整備や接種会場等の増設など、接種しやすい環境を整える必要がある。
- 接種率が低い若年者に対しては、県内大学等と連携し、接種することが社会経済活動の維持につながることや、身近な人たちを感染から守る行為であることを意識してもらう取り組みのほか、直接的なメリットを提供するなどの接種を促進する取り組みを検討する必要がある。

主な具体的意見(第3回アドバイザリーボード会議)

(3) 医療体制の強化

- 今夏において、高齢者が感染しても満床のため、速やかに入院できない事態が生じた。今後とも、重症化リスクの高い高齢者を守る観点から、安心して質の高い医療が受けられるよう、中長期的視点にたつて、病床の増床に努めていく必要がある。
- 県内においては、日頃から病床使用率が高く、安易な救急利用などにより医療に負荷がかかっており、大切な医療資源を有効に活用できるよう地域医療包括ケアシステムの構築、県民の意識改革など中長期的な視点で、医療体制のあり方を改めて議論する必要がある。

(4) 社会経済活動と行動制限

- 時期を逸することなく、感染拡大時は行動制限を行い、感染収束時には社会経済活動を再開するなど臨機応変に対応する必要がある。社会経済活動は、これまでのイベントを開催した実績などを踏まえ、今後も感染対策等を徹底した上で、継続していく必要がある。
- 行動制限を行う場合の数値的基準を明確にできれば、行動制限に至らないよう県民ひとり一人が意識することで、予防ができるのではないかと考えられるので検討を行う必要がある。

(5) 感染後の後遺症や休校などの影響による心のケア

- コロナウイルス感染後の後遺症やワクチン接種後の副反応に苦しむ人へのケアが必要である。また、感染拡大に伴う休校により、オンライン授業が十分理解できない、感染不安による不登校、学校に馴染めないなど悩みを抱える子どもたちが増えており、心のケアや学習支援を行う体制の充実が求められている。

(6) デジタル技術の活用

- 医療情報の各種データの共有、遠隔問診診断の促進、情報発信などデジタル技術の活用により、先進的な医療体制の構築等を図る必要がある。